

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広 2階		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。 ・個人の意見を尊重し、皆さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。 ・事業所の勉強会、会社の旭川地区合同の勉強会などを定期的に行い、職員の知識と技術の向上に努めています。 ・入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまごころの贈り物」は幹線道路より徒歩数分の静かな住宅地に位置し、病院や商業施設、小学校に程近い距離にある。建物は鉄筋コンクリート造り3階建てで1階に独立した玄関があり、2階と3階が事業所である。共用空間はダイニングとリビングの空間を分けて設置し、和室の縁側も人気があり利用者の居心地のよい場所となっている。感染症の流行で自粛や中止であるが、例年、町内会行事への参加や傾聴ボランティアとの交流、小学生体験学習の受け入れを行うなど地域とのつきあいを大切にしている。外出や交流が難しい現在は、季節行事や誕生会、各種ゲーム・体操に工夫を凝らし、パーティー形式やタイトルをつけ目を引く献立を提供するなど、日々の生活を盛り上げ楽しめようとしている。また、プランターでの野菜作りや種から花を育て上げたり、編み物、座布団カバーの作り物など、利用者の趣味や特技の継続的支援に努めている。家族へは、電話連絡や事業所便りは元より、毎月個別に受診状況や写真付きの様子を書面にし送付している。日々の個人記録は本人の言動を詳しく記し、モニタリングやアセスメントにも活かされ現状に即した介護計画の策定に向けられている。利用開始前の医療機関への通院受診を支援し、馴染みのかかりつけ医の下で医療を受けられる体制も特徴である。管理者と職員が利用者のその人らしい生活の営みに想いを馳せ、ゆったりとした時間の中で日々の暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。	地域密着型の意義を盛り込んだ理念を標榜し、各フロワー理念と行動指針も定め、事業所内要所へ掲示している。毎月のミーティングの機会に理念等について触れており、意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加できるように援助させていただいています。職員が町内活動(廃品回収や新年会、忘年会、敬老会)に参加し関係強化に努めています。	町内会に加入し、例年、町内会行事や活動に参加していたが、感染症の流行により自粛や中止となっている。傾聴ボランティアの訪問や小学生との交流も見送られている。社会福祉協議会より古布の提供が得られている。	直接的な地域との関わりは未だ難しい状況である。これまで築いてきた交流を何らかの間接的な方法を検討して関係継続に向けた取り組みへの考えを示しているので、その実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が今年できなく、書面開催の為なかなか理解をしてもらう事が大変になってきています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし問題点に関して文書にてアドバイスや意見をもらっています。また管理者が末広地区の他の会議に出席し関係性を高める努力をしています。	運営推進会議は感染症の流行により書面開催となっている。家族とメンバーへは入居状況や活動報告、勉強会・研修、職員状況等について報告し、意見・要望を得る仕組みの元に運営している。会議参加メンバーの増員を思案中である。	参集が困難な状況下ではメンバー拡充に向け募る事も難しいが、社会福祉協議会担当者からの地域福祉情報や系列の看護師から健康管理対策の意見を得て、書面を通じての意見交換ができる可能性も期待できる。有意義な会議運営の推進に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させてもらっています。他GHの運営推進会議にも参加させて頂いています。	市の担当部署とは、介護保険に係る案件で意見を仰いだり、各種申請の手続きや事故報告等で直接出向き、指導や助言を得ている。制限緩和の時期には市内の同業者が開催する運営推進会議に参加し、認知症高齢者の福祉推進に向け協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。研修会を行い、各個人のケアの質の向上を目指しています。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、不適切ケア防止委員会を定期開催している。委員会では身体拘束・虐待について議題化し、支援での誘導のあり方など事例を通じ詳細に検討されている。年2回これらに係る内部研修を実施している。夜間帯のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるケースカンファレンスを通じて、虐待にならないように話し合っています。また、入浴時や就寝介助時に皮膚の観察を行い不適切なケアがないか観察を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加できない職員へも、研修資料配布を行い伝達講習を行えるように努力しなるべく知識の伝達に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、入居時に全文を読ませて頂き、不明点や疑問点をその場で解消できるように努めています。理解していただいた上で契約を行えるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ閲覧出来るようにファイル掲示しています。一階玄関に、「意見箱」設置し、来訪時職員などに声をかけやすい雰囲気づくりに努めています。	年4回まごころ便りと月1回個別通信として受診状況や生活の様子を写真付きで送付している。家族からはワクチン接種や面会について質問が寄せられ都度状況を説明している。利用者の食事に関する要望では職員が行事食を工夫し希望に応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のミーティングを通じて職員と意見交換し各フロアリーダーと連絡を密にし運営推進会議での内容を伝えています。	フロアごとに毎月ミーティングを開催している。管理者は職員個々の運営への要望や意見を聞いており、話しやすい環境を整えている。希望休・夜間勤務希望を聞き取り、一緒に話し合いながら調整し働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、職種別(管理職者、中堅1・2、新人)研修・目的別研修を含め、資格取得に向けた外部研修や地域講習への参加や、事業所内勉強会を行えるように、ケアミーティングなどの時間を使いながら、継続して勉強できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通じて他事業所との連携をとっています。他事業所の運営推進会議に参加しできる限りの情報収集に努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明させて頂いています。 要望などはフロアリーダーを中心に話し合い、改善に向け関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり、入居者様が生活していた環境をできる限り崩さぬように、主治医などは極力変更しないように、入居者様の意向に沿った援助を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会が出来ないため電話にて、御本人の様子報告や希望など聞きとりを行いながらケアプラン作成したり、年4回「まごころ便り」や月一度の写真付き「ご様子」の中で、日々の様子をお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と、外出、外泊はコロナウイルスの蔓延状況を見ながら対応させていただいています。ご友人からの電話や手紙など、お名前をお聞きし、ご家族にお伝えできるようにお手伝いさせていただいています。	感染症の制限緩和時期の家族面会は条件付きにてサポートしていたが、現在はまん延防止期間中により家族面会は中止である。電話や手紙の支援、インターネットを利用した面会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さま同士が各居室に行かれるように、ケアを行っています。入居者様同士が交流を行えるように支援させていただいています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御家族が、ウエスなどを持ってきてくれたり遊びに来て下さります。ほとんど入院はありませんでしたが、入院の際には、相談員さんと連携をとれるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。	毎月ケースカンファレンスを実施し、日常の中で把握した利用者の思いや意向の共有化が図られている。センター方式を活用したアセスメントにより、本人のしたい暮らしの分析を高めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族とご本人から聞き取りを行い出来る限り情報を集めるようにしています。入居前の担当ケアマネからも情報を収集に努め職員間で情報を共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ってケアを提供し、職員間で気付きを共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。	利用者の言動を詳細に個人記録に記し、ケースカンファレンスで短期目標に沿ったモニタリングがなされている。アセスメントは6か月ごとに更新され変化時に加筆をしている。利用者の暮らしを支える介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人全体で書式を統一し、各グループ間、フロアー移動などでもすぐに気付けるようにしています。意識統一も図りケアプランに沿った内容に出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出や買い物を行えるように、ご本人様の意向を確認し、ご家族と情報を共有し安全に行えるように援助させていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	庭がないため野菜などの園芸はできませんが、プランターやポッドを用いて、入居者様と花の苗を買いに行っています。今年の花はとてもよく咲いており入居者様の憩いにつながったと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の長年の主治医を継続して受診しています。かかりつけ医とは情報提供を行い、良好な関係を築いています。	利用開始前からのかかりつけ医に継続受診しており、通院は管理者が対応している。協力医による往診を受けている利用者が1名いる。毎月受診状況を家族へ個別の通信で報告している。週1回、医療連携で系列法人の看護師が訪れ健康観察を行っている。	

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の情報提供については各階のケアマネが情報交換を行っています。入退院のムンテラに関しては、管理者が参加し医療的な部分についての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明させて頂いています。御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来るように努めています。	利用契約時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。感染症の流行以前は看取り支援を行っていたが、職員不足により難しい状況となっている。医師の判断に基づき重度化等について関係者間で話し合い、今後に向けた包括的な支援方針を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時とともに水害対策について対応しています。備蓄品の食糧3日分と非常時にストーブを備蓄していますが、だんだんと場所が狭くなり困っています。	令和4年1月洪水想定で3階への避難誘導の実践的な訓練を行った。2月に日中・火災想定避難経路の確認を含め避難訓練が実施された。災害時に地域から協力が得られる体制である。自然災害における業務継続経計画(BCP)は法人にて策定中である。	災害の種別や状況により「事業所内避難所」となりうる事も想定される。ポータブル発電機の購入を検討中であるので、更なる災害対策の強化に向け実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とは鍵のかかる場所に保管しています。入居者様各個人に合わせた声掛けを行っています。	不適切ケア防止委員会の定期開催により、言葉かけや対応へのより良い改善に至っている。個人記録類は事務所内で保管し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向をくみ取れるように、ケア実施時に職員間で気付きを共有できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが尊厳を持って生活できるようにその日の気分体調に合わせたケアをおこなえるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思の決定ができる方にはその日の気分にあう服装を選んでいただいたり、原則月1回の訪問理美容を利用していますがコロナウイルスの蔓延でできるときに訪問させて頂いています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はコロナ蔓延防止の為なるべくおしゃべりを行わないようにケアしています、シールドなどを使い間仕切りなどしていましたが、入居者がどけてしまったりとうまくいかないことも多々あります。	法人の栄養管理された献立で提供し、利用者の希望する料理は季節の行事食で反映させたり、おでんの日・ピザパーティー・焼き鳥の日・本格ラーメン・生寿司の日を設け食卓を盛り上げている。本人の誕生日に職員手作りケーキや嚥下状況に応じたデザートを工夫し祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量に関しては各個人の記録をつけて、不足がないように援助しています。栄養バランスに関しては、管理栄養士が献立を作成し1日をつうじて過不足なく計算してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内の清潔を保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの記録をつけており大体の排泄パターンの把握に努めています。	サービス提供チェック表と個人記録、タブレットに排泄状況を記し状態を把握している。個々の排泄の目安や仕草などでトイレ誘導し失禁とならないようにしている。現在、夜間帯の排泄支援について睡眠と起床排泄について検討がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行うために、主治医と連携を密にしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るようにしています、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を提供できる時間は決まっていますが、入居者様の意向に沿えるように入浴支援を行っています。	入浴を億劫がる利用者への声かけの工夫や入浴日を翌日に移行するなどして利用者1人週2回の入浴を支援している。入浴剤や好みの湯加減、楽しい会話でゆったりと寛げるようにしている。浴槽のへり幅が広い箇所に腰を下ろしながら湯船への出入りも可能で、本人の安心できるペースで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬季は、加湿器とぬれタオルを使用し加湿に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が飲まれている薬を各個人ファイルに挟みすぐ確認できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味や特技を職員間で情報共有し、「裁縫」や「編み物」が趣味の方には、「お手玉・座布団カバー」を縫って頂いたりしてもらっていました。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの為ほとんど外出ができない状況です。本社からも不用意な外出禁止令が出ており、コロナウイルスが収まってきたら再開したいと考えています。	例年実施していた外出や外食は自粛しており、現在はまん延防止期間中にあり、病院受診が主な外出の機会となっている。天候のよい時期は玄関横のホールで園芸をしたりベランダで洗濯物を干すなどして外気浴をする機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持っている入居者はいませんが、こちらで立て替えを行い買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられ様に、季節の花や植木鉢にお花を飾り、また季節行事を行う事によって季節感を感じていただけるようにしています。	共用空間は明るくダイニングとリビングがセパレートで設置され、和室縁側も利用者の寛ぎの場所となっている。季節感ある飾り付けや利用者の作品を掲示している。玄関横のホールやベランダは趣味の園芸や洗濯物干しに利用している。床板はクッション性の建築材を用いて転倒でのショックを和らげている。エアコン・床暖・加湿器等を設置し空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法に違反しないように、廊下に椅子や机を置き各入居者様がケガをしないように配慮しながら各個人が生活できるように援助しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が生活していた時と同じ環境を作れるように、自宅で生活に使用していたものを持ってきてもらっています。	居室入り口には個々の好みに応じた写真や表札を掲げ自室とわかる工夫がある。クローゼット・照明・カーテン・床暖が備え付けである。使い慣れた家具やテレビ・冷蔵庫・ラジカセなどの希望する物や大切な品々が持ち込まれている。居室内でも趣味事ができるように職員がサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広 3階		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。 ・個人の意見を尊重し、皆さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。 ・事業所の勉強会、会社の旭川地区合同の勉強会などを定期的に行い、職員の知識と技術の向上に努めています。 ・入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事がコロナウイルスによって行われていませんが職員が町内活動(廃品回収)に参加し関係強化に努めています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が書面開催の為、なかなか思うようにすすめられませんでした。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし問題点に関して電話や書面にてアドバイスや意見をもらっています。また管理者が末広地区の他の会議に書面にて関係性を高める努力をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させてもらっています。他GHの運営推進会議にも参加させて頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。研修会を行い、各個人のケアの質の向上を目指しています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるケースカンファレンスを通じて、虐待にならないように話し合っています。また、入浴時や就寝介助時に皮膚の観察を行い不適切なケアがないか観察を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ、研修資料配布を行い伝達講習を行えるように努力しなるべく知識の伝達に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、入居時に全文を読ませて頂き、不明点や疑問点をその場で解消できるように努めています。理解していただいた上で契約を行えるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ回覧出来るようにファイル掲示しています。一階玄関に、「意見箱」設置し、来訪時職員などに声をかけやすい雰囲気づくりに努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のミーティングを通じて職員と意見交換し各フロアリーダーと連絡を密にし運営推進会議での内容を伝えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、職種別(管理職者、中堅1・2、新人)研修・目的別研修を含め、資格取得に向けた外部研修や地域講習への参加や、事業所内勉強会を行えるように、ケアミーティングなどの時間を使いながら、継続して勉強できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通じて他事業所との連携をとっています。他事業所の運営推進会議に参加してできる限りの情報収集に努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明させて頂いています。 要望などはフロアリーダーを中心に話し合い、改善に向け関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり、入居者様が生活していた環境をできる限り崩さぬように、主治医などは極力変更しないように、入居者様の意向に沿った援助を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に関しては、面会制限の為電話にて御本人の様子報告や希望などを行いながらケアプラン作成したり、年4回「まごころ便り」や月一度の写真付き「ご様子」の中で、日々の様子をお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウイルスの蔓延により面会制限を行っていましたがZOOMなどを利用し面会できるようにしました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さま同士が各居室に行かれるように、ケアを行っています。入居者様同士が交流を行えるように支援させていただいています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御家族が、ウエスなどを持ってきてくれたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族とご本人から聞き取りを行い出来る限り情報を集めれるようにしています。入居前の担当ケアマネからも情報を収集に努め職員間で情報を共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ってケアを提供し、職員間で気付きを共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人全体で書式を統一し、各グループ間、フロアー移動などでもすぐに気付けるようにしています。意識統一も図りケアプランに沿った内容に出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランターを使ってしし唐や、スナックえんどうを利用者様と一緒にうえました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナウイルスの為外部より慰問などが受け入れられない事だったので、職員が季節行事を盛り上げるように頑張りました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の長年見ていただいている主治医との連携を図っています。日々の生活において小さな情報もお伝えしています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の情報提供については各階のケアマネが情報交換を行っています。入退院のムンテラに関しては、管理者が参加し医療的な部分に関しての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明させて頂いています。御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来るように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は水害対策を行いました。備蓄品も食料などを3日分確保しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報鍵のかかる場所に保管しています。入居者様各個人に合わせた声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向をくみ取れるように、ケア実施時に職員間で気づきを共有できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが尊厳を持って生活できるようにその日の気分体調に合わせたケアをおこなえるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思の決定ができる方にはその日の気分にあう服装を選んでいただいたり、月1回の訪問理美容を利用し整髪に努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時はついたてを利用しながら、なるべく会話を優先しながら行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量に関しては各個人の記録をつけて、不足がないように援助しています。栄養バランスに関しては、管理栄養士が献立を作成し1日をつづいて過不足なく計算してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内の清潔を保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの記録をつけており大体の排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行うために、主治医と連携を密にしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るようにしています、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を提供できる時間は決まっていますが、入居者様の意向に沿えるように入浴支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬季は、加湿器とぬれタオルを使用し加湿に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が飲まれている薬を各個人ファイルに挟みすぐ確認できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様によっては、編み物やオセロなど行い毎日楽しみに生活されています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスにより外出することが出来ないため、季節行事や室内でできる事を重点的に行っています。早く外出規制が溶ければ外出行事を再開したいです。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持ち込んでいる方はいけませんので、ホーム側にて金銭の立て替えを行い入居者様が買い物できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる様に、季節の花や植木鉢にお花を飾り、また季節行事を行う事によって季節感を感じていただけるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法に違反しないように、廊下に椅子や机を置き各入居者様がケガをしないように配慮しながら各個人が生活できるように援助しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が生活していた時と同じ環境を作れるように、自宅で生活に使用していたものを持ってきてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム まごころの贈り物

作成日：令和 4年 3月 29日

市町村受理日：令和 4年 3月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	直接的な地域行事などに、現在コロナウイルス感染症のために、町内会活動が停止しているため、入居者さまが地域の行事に参加できない状態。	町内会活動に参加できる。	コロナウイルス感染症のために、現在町内会長との話し合いを行っているがしばらく開催できそうにないとの事	1年
2	4	運営推進会議のメンバーがある程度固定されてしまいいなかなか参加メンバーも増やすことができない。	参加メンバーが増える。	現在コロナ感染症のため書面開催となっており書面にて健康管理情報や感染症についての情報掲載など書面を通したやり取りができる	3か月
3	35	災害対策において、地域住民の避難がある事が予想されるため発電機が必要である。	大規模な発電機は敷地の関係にて用意できないが、ポータブル発電機を購入できるように検討します。	ポータブル発電機を各階1台ずつ最低でも用意できるように本社に確認をおこなっていき予算確保に努めたい	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。